

基本目標Ⅰ 高齢者の健康づくりの推進

（１）高齢者自身の主体的な健康づくりの推進

①保健計画と連携した健康づくりの推進

■ 保健計画と連携した健康づくりの推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
「にしGOココカラ元気プロジェクト」参加者数	250人	326人	300人	350人
1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上続けている者の割合 ※	36.0%	42.5%	37.0%	38.0%

※KDBシステムより

【実施内容・実績】

にしGOココカラ元気プロジェクトは、ウォーキング、ランニング、血圧測定などのコースから選択し、目標を設定し、日々の健康づくりに取り組むことを目的とした事業である。目標の達成度合いに応じ、商品券等と交換を行うインセンティブ事業として、令和5年度より実施している。

（令和5年度）参加者 141名

（令和6年度）参加者 326名

【自己評価（現状、課題と対応策）】

生活習慣病予防の知識の普及啓発に加え、自発的な健康づくりの取り組みを促し、健康状態の保持増進を進めることができた。参加者の年代層に偏りがあるのが現状であるため、より幅の広い年代の多くの村民が主体的に健康づくりに取り組むことができるよう、にしGOココカラ元気プロジェクトのコースや取り組み内容を見直し、健康づくりの普及に努めていく。

②健康診査の推進

■ 健康診査の推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
特定健診受診率	48.0%	49.5%	49.0%	50.0%
高血圧有所見者 （収縮期血圧/拡張期血圧）※	46.0%/14.5%	43.0%/22.5%	45.5%/14.0%	45.0%/13.5%

※KDBシステムより

【実施内容・実績】

健診項目の中に、尿中塩分測定を追加し、自分の塩分摂取量の見える化し、塩分摂取量を把握してもらった。また、高血圧の講演会を行い、塩分測定器の貸し出しを行うとともに、再度、尿中塩分測定を実施し、前回との比較を行ってもらった。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

塩分摂取量は全体的に高い傾向にあるため、さらに減塩対策を進めていく必要がある。

③高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進

■ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
健康教室（栄養・口腔・運動）の実施地区数	16地区	19地区	18地区	20地区
フレイル予防教室参加者数	200人	229人	220人	230人

【実施内容・実績】

健康・医療・福祉について一体的に実施する体制を構築し、老年期においても保健事業を実施することで、生活習慣病の重症化を防ぎ、要介護状態に陥ることを予防するために、個別相談や通いの場での健康教育、フレイル予防（運動・栄養・口腔）等を実施している。

（令和6年度）派遣地区数：19地区 参加者数：229人

実施回数：23回（栄養4回、口腔10回、運動9回）

【自己評価（現状、課題と対応策）】

通いの場については、医療専門職を派遣し、地域の介護予防の取組みの機能強化を図ることができた。令和6年度はリハビリテーション専門職も派遣し、さらに地域での健康づくりを図ることができた。生活習慣病等のリスクを抱える高齢者に対して、一人ひとりの状況に応じた個別支援をおこない、病院への受診勧奨や健康状態の把握につなげることができた。面談等が実施できなかった対象者については、信頼関係を構築しながらアプローチを継続していく必要がある。

（２）高齢者活動団体の交流や社会参加への支援

①老人クラブ活動への支援

■ 老人クラブ活動への支援

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
会員数	180人	165人	185人	190人
年間活動回数	100回	91回	105回	110回

【実施内容・実績】

西郷村老人クラブへの助成を通して仲間づくりや健康づくり、社会奉仕やその他の地域活動等、自らの生きがいを高める様々な活動を支援している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

活動時の天候不順などもあり、活動回数が減少している。

村として積極的な活動を行えるように、社会福祉協議会と連携しながら支援していきたい。

会員数については新規会員が増えた一方で退会する会員もあり、総数としては増減なし。会員数を増やしていくために、就労している方やほかのサロン等に所属している方をどのように呼び込んでいくか、方法も含めて課題がある。

②シルバー人材センターの活動支援

■ シルバー人材センターの活動支援

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
会員数	170人	178人	175人	180人

【実施内容・実績】

生きがいや健康増進の場、経済的な面からも高齢社会にとって重要な組織であるため、引き続き一般の雇用に馴染まない高齢者を対象に、その知識や能力、体力等に応じ臨時的かつ短期的な仕事を提供する業務を行う経費について支援している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

シルバー人材センターの支援を通して、就労等による高齢者の社会参加に繋がっている。しかし定年延長等の雇用環境の変化や新規入会者の減少により人員が不足していることと、会員の高齢化が課題となっている。会員募集の広報にも力を入れる必要がある。

③敬老事業

ア 敬老会

■ 敬老会

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
出席者数	55人	104人	60人	65人
出席率	20.0%	26.0%	21.0%	22.0%

【実施内容・実績】

令和6年度は規模を拡大し、新たに77歳の方を対象者に加えて敬老会を開催した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

敬老会の参加率が低い事が課題としてあげられるため、敬老会の内容や実施方法など検討していく必要がある。

イ 敬老祝金

■ 敬老祝金

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
対象者数	2,450人	2,489人	2,500人	2,560人

【実施内容・実績】

毎年9月15日において西郷村に1年以上住所を有する年齢75歳以上の対象者に5,000円を支給。ただし令和6年度より、80歳、88歳、90歳、99歳以上の者については10,000円の支給を行った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和5年度に行われた敬老事業検討委員会を経て、敬老祝金について見直しが行われ、令和6年度は節目の年齢の方について祝金増額を行ったが、今後は高齢化社会により予算の増加が見込まれるため予算確保が課題となる可能性がある。

ウ 百歳高齢者賀寿

■ 百歳高齢者賀寿

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
対象者数	10人	10人	7人	7人

【実施内容・実績】

令和6年度は、対象者10名に対して、祝状及び祝金100,000円を贈呈した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

コロナ感染症が収束したことから、式典形式や伝達による贈呈など、本人や親族の希望を確認し実施する事が出来た。

④ボランティア活動

【実施内容・実績】

ボランティア活動として、地域づくり勉強会を開催しており、シルバー人材センターでは、就労等によって高齢者の社会参加に繋げている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

ボランティア活動では、「地域の見守り体制」・「地域の通いの場づくり」・「村内の地域資源の情報発信」等が地域の課題として挙げられた。

（３）生涯学習活動・生涯スポーツ活動の推進

①生涯学習活動の推進

■ 生涯学習活動の推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
人生楽園クラブ延べ参加人数	680人	480人	710人	740人
人生楽園クラブ参加実人数	105人	66人	110人	115人
きらり学び講座延べ参加人数	290人	314人	310人	330人
きらり学び講座参加実人数	70人	63人	75人	80人

【実施内容・実績】

生涯学習推進の一環として、趣味の講座及び特別講座で教養を身につけ、交流、健康増進を図るため、高齢者学級である「人生楽園クラブ」及び「きらり学び講座」を開催している。

人生楽園クラブでは、趣味の講座（茶道、編み物、健康麻雀、カラオケ等）計7回、講話1回、研修旅行を1回実施した。

きらり学び講座では、論語・俳句・歴史を題材に、計11回開催した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

人生楽園クラブについては、これまで好評であった健康体操の実施を猛暑の影響により見送ったこともあり、参加人数が令和5年度と比較し減少した。令和7年度より、空調が整備された会場を確保し、健康体操を再開する。きらり学び講座では、内容の充実等により、延べ参加人数が令和5年度と比較し50名程度増加した。

生涯学習活動推進のため、新たな講座内容の追加等、参加しやすい環境づくりに努め、継続して魅力ある企画、運営を図ることで参加者を増やすとともに、交流の活性化を図りたい。

②スポーツ・レクリエーション

■ スポーツ・レクリエーション

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
健康パドル体操参加延べ人数	350人	342人	400人	450人
健康麻雀延べ参加人数	2,700人	2,961人	2,800人	2,900人

【実施内容・実績】

健康パドル体操及び健康麻雀は、過去に公民館講座へ参加した方々がサークルを組織し、自主運営で活動を行っている。

健康パドル体操は、月平均3回のペースで実施し、参加延べ人数は令和5年度より30名程度増加したところである。健康麻雀は、月平均14回の活動があり、延べ参加人数は160名程度増加した。また、近隣地域との健康麻雀交流会を継続して開催し、活動及び交流の広がりを見せている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

コロナ禍以降、各団体での活動が精力的に行われている。しかしながら、高齢化等による参加者数、活動回数の減少が懸念されており、活動の維持・拡大のために参加者の意欲を高め、新たな団体加入者を増やすことが求められる。交流の促進とともに、団体での活動が円滑に進み活性化できるよう、幅広い支援を継続していく必要がある。

基本目標Ⅱ 地域包括ケア体制の深化・推進

（１）地域包括ケア体制の推進

①地域ケア会議の推進

■ 地域ケア会議の推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
地域ケア会議 （個別地域ケア会議含む）の開催	15回	27回	15回	15回
自立支援型地域ケア会議の開催	4回	4回	4回	4回
地域ケア会議（圏域別）	2回	1回	2回	2回

【実施内容・実績】

自立支援型地域ケア会議は要介護者の自立を目指すことを目的に、支援内容の検討や見直しを図るとともにケアマネジャー等の資質向上を図るもの。

圏域別地域ケア会議では、地域課題の発見や各種機関との連携の強化を目指すことで、より良い活動を行うにあたっての情報収集を目指す。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

自立支援型地域ケア会議については、専門職からの助言に十分な時間を充てるため、事前に資料を専門職の方々へ送付し会議での概要説明を省略して開催した。多職種の専門的な視点に基づく助言を通じて、要介護者の更なる自立につなげることができた。さらに翌年度モニタリングを行うことで、支援内容の検討を行った後の新たな課題についても協議し、ケアマネジャーの資質向上につながった。

圏域別地域ケア会議については、様々な立場の方から、それぞれの圏域において問題となっている事や、その対応方法について活発な議論が行われた。これにより、官民双方が共通の問題について共有することが行えた。

②地域包括支援センターの機能強化

■ 地域包括支援センターの機能強化

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
ケアマネ会議の開催	4回	4回	4回	4回
研修会への参加	85回	80回	90回	95回

【実施内容・実績】

地域包括支援センターへの総合相談件数も年々増加してきており、ますます重要性が高まっている。介護支援専門員への支援や指導を実施しながら研修会などへ積極的に参加し個々のスキルアップを図った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

地域包括ケアシステムの構築に向け、地域特性に合わせた仕組みづくりや関係機関との連携など包括支援センターが担う役割は大きいと、さらに機能強化していく必要がある。

③生活支援体制の整備推進

■ 生活支援体制の整備推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
生活支援コーディネーター の活動の場 訪問回数	30回	60回	32回	34回

【実施内容・実績】

生活支援体制整備事業の体制構築に向け、先進地である群馬県みどり市を訪問し視察研修を行った。
みどり市で実施している生活支援体制整備事業は、本村で事業展開を検討している簡単な日常生活上の支援を行う有償ボランティア事業であり体制整備の参考となった。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

介護保険制度では提供できない生活支援サービスや介護認定を受ける前の段階の高齢者の方に対する生活支援の充実を図るため、有償ボランティアの体制整備に向け推進していく。

④在宅医療・介護連携の推進

■ 在宅医療・介護連携の推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
多職種連携会議の実施回数	1回	1	1回	1回
村民への講演会・講座 実施回数	5回	2	5回	5回
医療・介護従事者の 多職種連携会議	1回	1	1回	1回

【実施内容・実績】

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために、必要な支援を行う。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和6年度の市民向け講演会での参加者は73名であった。周知を介護・福祉事業所にも行うべきだったとの反省が挙がった。併せて、出前講座では‘終活’というテーマで行われ実際に参加された方からは大変好評だった。今後も医療と介護の両方を必要とする状態の方が、より良い在宅生活を送る為の活動を進めていく必要がある。

⑤高齢者のより良い住環境づくりの推進

■ 高齢者のより良い住環境づくりの推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
高齢者向け住宅の連携会議	1回	1回	1回	1回

【実施内容・実績】

高齢者の住まいについて、県、住宅担当課、高齢者担当課による連携会議を実施し、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等の情報について連携を図った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢者のみ世帯が増加していることに加えて、持ち家の老朽化や迅速にサービスを受けられない地域に住んでいる等、高齢者の住まいのあり方が課題になっている。

令和6年4月に新たに特別養護老人ホームが開所され、介護度が重い方の住まいが拡充された。引き続き身体の状態にあった住まい環境を確保していく。

（２）介護予防・日常生活支援の充実

①介護予防把握事業（西郷村高齢者福祉トータルサポート事業）

■ 介護予防把握事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
訪問件数	5,100件	5070件	5,200件	5,300件
調査件数	3,300件	3321件	3,400件	3,500件
介護予防基本チェックリスト 作成件数	3,100件	1750件	3,200件	3,300件

【実施内容・実績】

村社会福祉協議会に委託し、事業を実施。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、高齢者の実態把握調査や介護予防のチェックリスト作成、また各種保健福祉サービスの広報・啓発、各種事業の代行申請、を行っている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

事業の啓発活動により住民の認知度も図られ、調査がスムーズに進むことが増えているが、防犯意識から聞取りなど警戒される場合もあるため、引き続き啓発広報を行っていく。また、当事業により、支援が必要な方を早期発見し対応につながるケースもあるため、今後も関係機関と連携を強化し、事業を進めていく必要がある。

②介護予防普及啓発事業

ア お元気運動教室

■ お元気運動教室 ※年間実施計画により参加者数や利用回数に変動有り

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
参加者数	36人	31人	36人	36人
参加者延べ利用回数	360回	262回	360回	360回

【実施内容・実績】

体力レベルが比較的高い高齢者を対象に健康運動指導士等の指導によるストレッチや有酸素運動、器具を用いた運動教室を実施している。

（令和６年度）開催数：40回実施 ※10回×4コース

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢者が介護予防について正しく理解し、主体的に介護予防や健康づくりに取り組むきっかけとなっている。毎年リピーターの参加率が高く、新規参加者の獲得が難しい状況であるため、より多くの方に介護予防に取り組んでもらうための事業展開が課題である。

イ いきいき教室

■ いきいき教室 ※年間実施計画により参加者数や利用回数に変動有り

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
参加者数	70人	72人	70人	70人
参加者延べ利用回数	780回	938回	780回	780回

【実施内容・実績】

ADL(日常生活動作)の低い高齢者を対象に、専門職による運動器と口腔機能の指導や訓練を行う軽運動教室を実施している。

(令和6年度)開催数：60回

※通年コース 1セット×20回×2グループ 新規コース 1セット×10回×2グループ

【自己評価(現状、課題と対応策)】

リピーターの参加率が高く、新規参加者が少ない傾向にあったが、高齢者福祉トータルサポート事業での介護予防基本チェックリストを活用し、今後ADLが低下すると思われる方に対して、教室への参加を促していく。

ウ 介護予防体力測定会

■ シニア体力測定会

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
参加者数	80人	80人	90人	100人

【実施内容・実績】

より広い範囲の高齢者の介護予防・健康寿命の延伸を図るため、令和6年度より概ね65歳以上の村民を対象とした体力測定会を実施している。体力測定を通じて自身の身体状況を客観的に把握し、併せて専門職による個別指導を実施することで、早期に介護予防に取り組む契機づくりにつながることを目指す。

(令和6年度)開催数:2回(5月、11月) ※実参加者数:80名

【自己評価(現状、課題と対応策)】

お元気運動教室やいきいき教室だけでは支援しきれていないより広い範囲の村民に介護予防についての正しい理解と普及啓発を図ることにつながった。今後も、自身の身体状況を把握し、早期に介護予防に取り組むきっかけづくりにつながることを目指していく。

エ 元気からだ塾

■ 講演会・講習会

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
実施回数	5回	5回	5回	5回

【実施内容・実績】

各種専門職による講演・講話を行い、生活機能全般を維持・向上させるための知識の普及啓発を行うことにより、住民の主体的な健康づくりを支援するため、令和6年度より実施している。

(令和6年度)実施回数:5回 ※延べ参加者数:541名

【自己評価(現状、課題と対応策)】

元気からだ塾全5回すべてで、定員を上回る参加申し込みとなり、村民の自主的な健康づくり、介護予防への取り組みの一助となった。参加者の意見に耳を傾け、村民のニーズにあった講演・講話を実施できるよう努めていく必要がある。

③地域介護予防活動支援事業

■ 地域介護予防活動支援事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
シニア活動支援事業派遣箇所	16地区	15地区	17地区	18地区
介護予防サポーター人数	60人	60人	70人	80人

【実施内容・実績】

シニア活動支援事業では、地域でのサロンや健康運動教室等の自主活動の通いの場に、健康運動指導士の派遣を実施している。令和6年度より健康運動指導士だけでなく、介護予防サポーター及び保健師を派遣している。

介護予防サポーター養成講座は、地域における高齢者の積極的な健康づくりや介護予防への取り組みを応援するボランティアの育成を目的に実施している。

(令和6年度) 新規養成講座 : 16人 開催数:3回

フォローアップ養成講座 : 8人 開催数:3回

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和6年度より健康運動指導士だけでなく、介護予防サポーター及び保健師を地域に派遣している。今後も、地域での自主活動の強化が図れるよう、健康講話の実施、体操や体力測定をサポートなどを通して介護予防の知識の普及に努める。介護予防サポーターも活用しながら、運動面のみでなく、多面的なアプローチをとって幅広い村民の方が携われる仕組みづくりを目指す。

④介護予防・生活支援サービス事業

【実施内容・実績】

緩和したサービス事業実施につきましては、生活支援体制整備事業や、地域ケア会議等を活用し、地域のニーズにあったサービスが提供できるよう事業所等と協議を重ねてきたが、採算性、人員の確保の問題もあり実施には至っていない。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

移行前の訪問・通所介護に相当するサービスを引き続き行うほか、村民の方が多様なサービスを選択できるよう、訪問(通所)型サービスA(緩和した基準によるサービス)の実施を目指していく。他のB(住民主体による支援)、C(短期集中予防サービス)、D(移動支援)については、生活支援体制整備事業や地域ケア会議等を活用しながら地域の実情を把握した上で必要性を検討していく。

⑤住民主体の通いの場の普及・啓発

■ 住民主体の通いの場の普及・啓発

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
通いの場の実施数 (いきいきサロン)	12か所	11か所	13か所	14か所

【実施内容・実績】

いきいきサロンへ保健師の派遣を行い、健康講話や体力測定を実施することで活動を支援している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者が自立した生活を送るためには、心身ともに健康で要介護状態になることを予防していくことが重要となる。地域での通いの場への参加や、自主的な健康づくり、介護予防教室への参加を促すような取組が必要となる。引き続き、自主活動内容の幅が広がるよう社会福祉協議会と連携しながら、新たな通いの場が増えるように努めていく。

⑥高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進(再掲)

（３）認知症施策の総合的な推進

①認知症に対する正しい知識の理解促進

■ 認知症サポーターの養成

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
認知症サポーター数 ※認知症サポーター養成講座受講者数（延べ人数）	1,800人	1,839人	2,000人	2,200人
認知症サポーターステップアップ講座の開催	2回	1回	2回	2回

【実施内容・実績】

認知症の方が安心して暮らせる村づくりを目指して、認知症サポーター養成講座を村民・学校向けに開催し、幅広い世代及び職種の方へ認知症について正しい知識の理解と普及啓発を推進するとともに、地域の見守りの強化を図っている。中学生向けの認知症サポーター養成講座と一般村民向けの認知症サポーター養成講座を実施している。認知症サポーター養成講座受講者にステップアップ講座を受講していただき、今後は村の認知症施策への協力にも繋げていきたい。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症に対する正しい知識の普及及び啓発、実際に地域での見守りの強化を図るために、引き続きも認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を開催し、認知症の方、介護する家族の支援者の養成を進めるとともに、チームオレンジを構築し、サポーターの活躍の場を作り出していく。

イ 認知症カフェの普及

■ 認知症カフェの実施

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
認知症カフェ（設置数）	3か所	3か所	3か所	3か所
認知症カフェ（開催回数）	5回	5回	6回	7回

【実施内容・実績】

認知症カフェは、認知症の本人及び家族が身近な場所で、医療・保健・福祉の専門職に相談しながら、地域住民と交流ができる場、気軽に情報交換できる場として設置している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

カフェ開催時にも高齢者の相談窓口を設置し、休日しか相談に来られない方への介護申請等の対応も行うことができています。しかし、引き続きカフェの認知度が低く、参加者が伸び悩んでいることが課題としてあげられている。今後、継続してカフェの内容や広報手段、交通手段の課題に取り組んでいく必要がある。

認知症の予防には、孤立の解消や社会参加が重要であることから、認知症カフェの役割は大きい。今後も、気軽に参加できる場として、認知症カフェの周知と開催に取り組んでいく。

ウ 認知症に関する普及・啓発活動

■ 認知症啓発活動

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
各種イベントにおける啓発活動	10回	9回	10回	10回
認知症相談窓口普及啓発活動	15回	18回	20回	25回

【実施内容・実績】

世界アルツハイマー月間等を通して認知症に関する広報活動を行っている。今後も、認知症に関する基礎的な情報や、相談窓口・医療機関に関する相談窓口の普及・啓発に努め、早期に相談につながるよう支援を行う必要がある。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症に関する正しい理解や窓口の周知については、継続して実施していく必要がある。また、認知症ケアパスをより活用しやすい形に改訂を行い、早期発見・早期支援につなげていきたい。

②認知症の予防及び早期発見・早期対応の推進

ア 認知症相談事業

■ 認知症相談事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
認知症に関する相談件数	110件	79件	120件	130件

【実施内容・実績】

認知症カフェやその他相談先にて認知症に関する高齢者や家族の相談があった際に、認知症初期集中支援チームや認知症ケアパス等を活用しながら関係機関と連携し、適切な支援を行っている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症の相談窓口の周知を図るとともに、関係機関と連携し、適切な支援に結び付けられるよう相談体制を構築していく。

イ 高齢者補聴器購入費助成事業

■ 高齢者補聴器購入費助成事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
助成件数	15件	19件	20件	25件

【実施内容・実績】

難聴により日常生活を営むのに支障がある高齢者に対して、補聴器の購入費用の一部を助成する。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

事業の周知だけでなく、難聴によるコミュニケーション問題から、身体的・精神的な衰弱につながる可能性があることや、耳鼻科受診や補聴器の使用が健康寿命につながることを啓発していくことが重要と考えられる。

③認知症高齢者等の支援の推進

ア 認知症初期集中支援事業

	R6	R7	R8
	実績値	目標値	目標値
認知症初期集中支援チーム 支援件数	0件	—	—

【実施内容・実績】

認知症になっても出来るだけ長く住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の方に早期に関わるため、「認知症初期集中支援チーム」を県南4町村（矢吹町・中島村・泉崎村・西郷村）合同で県立ふくしま医療センターこころの杜に設置している。令和6年度は支援件数の実績は無かったが、認知症初期集中支援チームにおける研修会を行い、情報共有及び対応力向上を図ることができた。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症又は認知症の疑いのある方や家族に必要な医療や介護の調整をいつでも行えるよう、引き続き認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携し、早期に認知症初期集中支援チームにつなげていく必要がある。

イ 認知症地域支援推進員の活動

■ 認知症地域支援推進員の活動

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
年間活動回数	140件	76件	145件	150件

【実施内容・実績】

認知症地域支援推進員は、各市町村が進めている認知症施策の推進役、そして地域における認知症の人の医療・介護等の支援ネットワーク構築の要役として、地域の特徴や課題に応じた活動を展開している。

推進員は、各市町村が目指す「認知症の本人の姿」・「地域の姿」に近づくことを目標に活動している。

推進員の活動は、「医療・介護等の支援ネットワークの構築」、「関係機関と連携した事業の企画・調整」、「支援・支援体制構築」が3本柱であり、具体的な活動は、村と推進員が協働で計画・実施していきます。推進員が活動のさらなる充実を図れるよう、推進員への支援を行っていく。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症地域支援推進員が活動しやすい環境を整え、村と連携しながら、認知症の人の医療・介護等の支援ネットワーク構築を行っていく。

ウ チームオレンジの取組の推進

■ チームオレンジの取組の推進

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
チームオレンジへの取組	3回	1回	4回	5回

【実施内容・実績】

チームオレンジとは認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援を行う取組である。村では、認知症サポーターの方を、村の認知症施策事業で十分な活用に至っていないため、重点化すべき事業を明確にしながら、その活用につなげていき、チームオレンジの構築を目指していきます。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

村ではチームオレンジがまだ立ち上がっていないため、チーム立ち上げに向けて、目的と方向性を固めていく必要がある。

また、立ち上げ後には、村・包括が活動の支援を行っていく必要がある。

エ おかえり・見守り事前登録事業

■ おかえり・見守り事前登録事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
西郷村高齢者等おかえり・見守り事前登録事業の普及啓発	5回	6回	5回	5回

【実施内容・実績】

認知症などにより、徘徊するおそれのある方高齢者等情報を事前に登録することにより、警察署に対して家族からの行方不明者届及び通報があった場合、早期発見・保護を目的とする事業。

令和6年度 登録者 13名。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

広報誌により事業の啓発を行うほか、認知症サポーター養成講座や民生委員児童委員協議会などにおいても、事業について周知を図っている。今後も、様々な機会を利用し事業の周知活動を行い、認知症の方や、そのご家族の日常の不安軽減につなげ、地域における安心した生活の一助をしていきたい。

（４）地域共生社会の実現に向けた取組の推進

①地域包括支援と多様な参加・共同の推進

【実施内容・実績】

地域包括支援センターを中心に高齢者の生活支援・介護予防・権利擁護等の事業を介護事業者等関係機関と連携し推進した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

現在は、地域包括支援センターが中心になり事業を推進しているが、住民主体の取組みや関係機関が連携して対応する重層的・包括的な支援体制を整備していくことが課題である。

②共生型サービスの推進

【実施内容・実績】

ケース会議に高齢者担当部課と障がい者担当課が参加し、介護や障がいといった枠組みにとらわれず課題解決に取り組んだ。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

共生型サービスの体制が確立されていないため、多様化・複雑化してきている福祉ニーズへの臨機応変な対応や、地域の実情に応じたサービス提供体制を整備していくことが課題である。

基本目標Ⅲ 高齢者福祉の充実

(1) 高齢者の在宅生活を支える事業

① 高齢者生きがい活動支援通所事業

■ 高齢者生きがい活動支援通所事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
登録者数	2人	0人	3人	4人
利用実績（延べ回数）	10回	0回	15回	20回

【実施内容・実績】

在宅で生活する介護保険対象外の高齢者に対し、西郷村デイサービスセンター「ふれあいの家」「やすらぎの家」にて通所各種サービス(入浴、食事、生活指導、健康チェック等)の提供を行っている。高齢者の交流と仲間づくり、健康づくり、介護予防、閉じこもり解消等の支援につながっている。

※現在登録者は0名である。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

平成29年4月より開始された総合事業により、介護保険対象外となる高齢者でも通所各種サービスが受給できるため、本事業の計画については縮小の方向となっている。

② 訪問理美容サービス事業

■ 訪問理美容サービス事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
申請者数	11人	11人	12人	13人
助成券発行枚数	40枚	39枚	42枚	44枚
事業利用延べ回数	22回	27回	24回	26回

【実施内容・実績】

理・美容院に出向くことが困難な65歳以上の在宅高齢者や、要介護4以上の認定を受けた方を対象に、訪問による理美容サービスの出張費用を助成しており、令和6年度は申請者数、助成券発行枚数については目標値と大きな差は無かったが、事業利用延べ回数の増加が見られた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

前年度から引き続き事業を利用している方が多く、新規申請者は3名であった。今後も必要な方が事業を受けられるように、村広報やケアマネ会議等で事業内容の周知を行い、新規利用者の増加を目指すため、継続してトータルサポート事業と連携し、広報・周知に努めていく必要がある。

③デマンド交通

■ デマンド交通

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
65歳以上事業登録者	650人	599人	700人	750人

【実施内容・実績】

生活交通路線バス等の利用が困難な方で、ほかに移動手段を持たない方の日常生活の足を確保するために、ドア・ツー・ドアで送迎するデマンド型乗合タクシーを運行する交通事業者に対し、運行に係る経費の補助及びデマンド交通の予約業務委託を行った。また、令和6年10月からは道路運送法第4条による本格運行を開始した。

令和5年度の乗車総数は 12,807 名であったが、令和6年度では 1,222 名増の 14,029 名と順調に推移した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

当日予約ができない点や配車計画を手作業で作成しているという状況を改善するために、今後、AI 配車システム導入や運賃等を含めた運用方法の検討を行う。

④はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業

■ はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
申請者数	200人	212人	210人	220人
発行枚数	2,150枚	2,319枚	2,200枚	2,250枚
延べ利用枚数	950枚	794枚	1,000枚	1,050枚

【実施内容・実績】

70 歳以上、または 65 歳以上で障害者手帳1・2級を持っている高齢者が、はり・きゅう・マッサージ等の施術を受ける場合、その費用の一部を助成している。

令和 6 年度も継続して村広報誌や InfoCanal に加え、トータルサポートセンターの訪問員等を通じて事業の周知を図った結果、前年度を上回る申請者数となったが、延べ利用枚数は減少しており、申請者数に対する利用件数も減少した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和 6 年度は前年度と比べ申請者数は増加しているが、延べ利用枚数は減少しており、サービスの利用に至らない申請者が多かった。

今後は本当に必要な人がサービスを受けられるよう事業の周知を図ると共に、事業者及び利用者の声を聴くなどしてサービスの利用状況についても把握していく必要がある。

⑤軽度生活援助事業

■ 軽度生活援助事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
利用者数	6人	4人	7人	8人
延べ利用回数	65回	56回	70回	75回

【実施内容・実績】

65 歳以上で介護保険対象外の方に、訪問介護員を派遣し家事援助サービス(室内の整理・整頓、外出時の援助、食事・食材の確保、寝具類等の日干し、その他軽微な援助)を提供している。

なお、利用者に求められているサービスとしては、室内の整理・整頓や、食事・食材の確保が主な実績となる。

(指定事業所数:1事業所)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

在宅高齢者の自立生活をサポートし、介護予防を図る上でも継続事業実施が必要となる。

利用者数が増えた場合、現在の指定事業所のみでは事業対応できなくなるのが課題として挙げられる。

必要とする方がサービスに繋がるよう、トータルサポート事業と連携し、広報・周知に努め高齢者の日常生活の支援を行っていく。また、新たな指定事業所での事業実施も検討していく。

⑥寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

■ 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
事業延べ利用人数	190人	247人	195人	200人
寝具類利用枚数	500枚	623枚	510枚	520枚

【実施内容・実績】

65 歳以上の高齢者のみ世帯や要介護 3 以上の認定を受けた方、40 歳以上の寝たきり等の重度身体障がい者の方に対して、年に 2 回寝具の丸洗い・乾燥を行っている。

令和 6 年度より対象となる寝具のサイズの拡大をおこなった。前年度より実績が大きく伸び、本事業の需要の高さが伺えた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

民生委員・ケアマネジャー・トータルサポート等との連携もあり、利用者の拡大につながっている。

本事業は料金の 1 割のみの負担で寝具類のクリーニングができるものとなっており、多くの利用者から好評の声をいただいている。現在、物価高騰の影響によりクリーニング料金も高騰していることから、高齢者の経済面での負担軽減に繋がっている。

一方で課題として、枚数の制限がわかりにくい部分や回収・納品の具体的な時間が事前にお知らせできない部分について、利用者から声が挙がるがあった。

⑦高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

■ 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
住宅改修件数	40件	23件	40件	40件
住宅改修費（千円）	4,000	2,021	4,000	4,000

【実施内容・実績】

村内に在住の非課税世帯かつ65歳以上の住民を対象に、手摺り取付けや段差解消等を実施するにあたっての助成を行うことで、高齢者が住宅で安全かつ快適に過ごして頂けるようにする。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和5年度と比較しても、利用者数及び実績額が低迷している。より多くの方が、当制度の存在を認知して頂くと共に、より利用しやすい形に変える必要があると思われる。

令和7年度からは、当制度の利用条件であった‘非課税世帯’という条件を撤廃し、info canal 等において宣伝を行う事で利用者数を増やしていきたい。

⑧冷房器具購入費助成事業

■ 冷房器具購入費助成事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
事業利用者数	6人	3人	7人	8人

【実施内容・実績】

65歳以上の高齢者世帯を対象に、購入費用の一部を助成し高齢者の熱中症による事故を未然に防ぎ、生活の質の向上を図っている。

令和6年度の利用者数は3人であり、伸び悩んでいる。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

相談はあるものの、要件の一部に該当しない方が多く、利用につながっていない。特に「住民税非課税世帯であること」や「高齢者のみの世帯であること」に該当しない方が多く見られる。

(2) 高齢者虐待等防止と権利擁護

①虐待防止への取組の推進

■ 虐待防止への取組の推進

	R6	R7	R8
	実績値	目標値	目標値
高齢者虐待への対応	12	—	—

【実施内容・実績】

高齢者の人権や財産等の権利を守る「権利擁護」について、重要なテーマとなっている。

高齢者虐待への対応については虐待防止の啓発及び予防を行うとともに、事例を把握した場合には、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づき適切な対応に努めている。

令和6年度では、やむをえない理由による保護を実施した高齢者が1名おり、身の安全につなげることができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

個別案件については村と包括支援センターが連携し対応している。高齢者人口の増加に伴い、今後も高齢者虐待のリスクが増加することが予測されるため、通報があった際の状況確認を迅速に行うことや、相談者と不定期に連絡や訪問を行うなど、見守り体制の構築も必要である。

また、緊急保護が必要となった際に、協定を結んでいる事業所が受け入れできない状況も想定されるため、村内の事業所と協議し、協定事業所の拡大を行っていく。

今後も、引き続き関係機関との連携強化に努めると共に、村の虐待防止対応マニュアルの内容の精査も課題として挙げられる。

②高齢者への虐待対応体制の強化

■ 高齢者への虐待対応体制の強化

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
虐待防止の啓発活動	2回	1回	2回	2回

【実施内容・実績】

高齢者虐待への対応には、虐待防止の啓発及び予防が必要である。アルツハイマー月間の啓発活動に合わせて、高齢者虐待の啓発活動を実施し、住民の意識の向上に努めた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者虐待の防止・早期発見のためには、これまで以上に住民の方が高齢者虐待について理解していただく体制の整備や、相談窓口の周知が必要となるため、継続して啓発に力を入れていく必要がある。

③権利擁護事業

■ 権利擁護事業

	R6	R7	R8
	実績値	目標値	目標値
困難事例への対応	35件	—	—
その他権利擁護相談件数	2件	—	—

【実施内容・実績】

高齢者が地域で安心して生活するために、本人の意思によらない契約や詐欺、高齢者虐待の被害に遭わないような権利擁護や早期発見・早期対応の仕組みづくりに努めている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢化や核家族化の進展により、高齢者の困難事例が増加している状況である。地域住民や、民生児童委員、ケアマネジャー等の支援だけでは十分に問題解決ができない、適切なサービスにつながる方法が見つからない等、困難な状況にある高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活ができるよう、専門的・継続的な視点から支援を行う必要がある。

④成年後見制度利用支援事業

■ 成年後見制度利用支援事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
成年後見制度の相談件数	30件	32件	35件	40件
成年後見村長申立ての件数	—	1件	—	—
報酬助成件数	1件	2件	1件	1件

【実施内容・実績】

高齢者の実態把握や総合相談の中で、認知症による判断能力の低下等、特に権利擁護の観点から支援が必要と判断した場合に、地域において尊厳のある生活を維持していけるよう成年後見制度の利用を図っている。制度の普及啓発をするとともに、利用が必要な方で申立てが困難な方に対し、村長申立てや後見人等への報酬助成をし、福祉の向上に努めることができた。

また、令和6年度も成年後見制度講演会を実施したが、参加者が伸び悩み、制度そのものへの敷居の高さが伺えた。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

成年後見制度の利用促進や適切な対応のために、相談窓口の周知や制度の理解促進、職員のスキルアップが必要となる。

また、講演会について、住民の方が身近に感じるテーマと制度を結びつけるような形式で実施することで、成年後見制度を身近なものとして感じさせるようなものを実施していきたい。

⑤老人保護措置事業

【実施内容・実績】

保護措置者 令和6年度:1件

協定施設 村内4事業所

(福島県やまぶき荘、福島県さつき荘、リアンヴェール西郷、星の郷みらいグループホーム)

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和6年度では、村・地域包括支援センター・介護事業所が連携を取り合い、高齢者1名の保護を迅速に行うことができた。また、やむをえない事由に対する措置の協定施設を4事業所に拡大し、虐待事案発生時の対応に備えている。

(3) 高齢者の孤立防止と見守り体制の強化

①地域見守り体制ネットワーク事業

■ 地域見守り体制ネットワーク事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
地域見守り体制ネットワーク事業 協力事業者数	20社	10社	30社	40社

【実施内容・実績】

村、包括支援センター、村内の事業所、団体等が連携協定を結び、地域住民をさりげなく見守り、住民の異変を早期発見・対応できる体制づくりを行う事業です。

※令和6年度 協定締結事業所 10 社

【自己評価（現状、課題と対応策）】

今後も、啓発活動を続け、事業の趣旨に賛同してくれる事業者と協定の輪を広げ、安心して暮らせる村づくりを目指していく。また、協定締結をゴールとせず、認知症サポーター養成講座など、ほかの施策にも繋げ、事業所との継続的な関わりを進める必要がある。

②見守り安心ネットワーク事業

■ 見守り安心ネットワーク事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
登録世帯数	180世帯	150世帯	185世帯	190世帯

【実施内容・実績】

高齢者等に対し見守りに必要な機器を貸与し、24 時間体制で急病、火災、事故等の緊急時に迅速かつ適切な対応を行うとともに、村、地域包括支援センター、民生委員その他の協力機関が連携して高齢者等の見守り等を実施する。

令和 6 年度は 150 世帯の登録があり、269 件の通報があった。うち緊急的な通報や相談は 30 件あり、救急車の要請が 13 回、警備員の派遣が 12 回あった。

また長期間事業を休止している方については状況確認を行っており、再開の目途が立たない方については事業廃止の案内を行った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

登録世帯数は例年減少しており、新規の申請もいるものの、施設入所等による事業の廃止件数の方が多い状態が続いているため、今後も事業の周知に勤め、利用者の状況や社会情勢などを鑑み、柔軟に対応できるようにする。

③さわやか訪問収集事業

■ さわやか訪問収集事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
訪問実績（延べ件数）	2,640件	2,476件	2,780件	2,910件
登録世帯数	60世帯	60世帯	65世帯	70世帯

【実施内容・実績】

この事業は老衰、身体の障害、疾病等の理由により家庭から排出されるごみを所定のごみ収集所まで搬出することが困難な高齢者等に対し、安否を確認するために継続的に訪問してごみを訪問収集するサービスを提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。

令和6年度は新規に11世帯が事業の対象となったが、施設への入所等の理由で12件が事業廃止となった他、事業を休止している世帯が8件あり、休止者については現況の確認を実施して、再開の予定等について把握した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和6年度は登録世帯の状況等の把握に勤め、長期休止者の意向を確認した他、利用者の不安や相談事をケアマネジャー等の関係者に繋ぐ対応を行った。

この事業では、身体機能の低下に加え近隣での協力が得られない方を対象としているため、今後も地域での孤立等がないよう民生委員・地域包括支援センター・高齢者福祉トータルサポート等との継続的な情報共有を行っていく。

④介護予防把握事業（再掲）

⑤住民主体の通いの場の普及・啓発（再掲）

⑥災害時における体制整備

■ 災害時における体制整備

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
避難行動要支援者数	1,300人	1,183人	1,300人	1,300人

【実施内容・実績】

避難行動要支援者については、令和6年3月の地域防災計画の改定に伴い対象者の要件の見直しを図った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

現状は避難行動要支援者に対する個別避難計画の策定へ向けて準備を進めている。

基本目標Ⅳ 利用者本位の介護保険事業の推進

（１）介護保険サービスの充実

①介護保険サービス基盤整備

■ 介護保険サービス基盤整備

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
地域密着型特別養護老人ホームの施設数	0か所	0か所	0か所	1か所
小規模多機能型居宅介護事業所の施設数	1か所	1か所	1か所	2か所
認知症グループホームの施設数	2か所	2か所	2か所	3か所

【実施内容・実績】

地域包括ケアシステムを深化・推進し、介護需要急増への対応を図るため、福祉タウン構想の実現に向け、施設整備計画を具体化するため協議・調整を図っている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

昨今の人件費の高騰、建設コストの増大により、当初計画した予算と現在の見積価格との乖離が大きいため、設計内容の見直し等により計画に遅延が生じている。

②介護保険サービス事業者への支援及び指導・助言

■ 介護保険サービス事業者への支援及び指導・助言

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
居宅介護支援事業所への運営指導	1件	1件	1件	1件
地域密着型サービス運営委員会の開催	1回	1回	1回	1回
地域密着型サービス事業所への運営指導	1件	1件	1件	1件

【実施内容・実績】

西郷村では居宅介護支援事業所、及び地域密着型サービス事業所の運営指導を実施しており、事業所に対し、介護保険制度に基づく連絡事項の伝達、各文書の確認、介護保険制度に関する説明等を行った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和6年度は新規の地域密着型事業所に運営指導を実施しており、サービスや各種制度について指導を行っており、今後も西郷村の住民が安心してサービスを受けられるよう、各事業者と連携していきたい。

③介護給付適正化

■ 介護給付適正化

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
例外給付に係るケアプランの点検率	100%	100%	100%	100%
認定調査結果の点検率	100%	100%	100%	100%

【実施内容・実績】

介護(予防)給付が利用者様にとって、真に必要な物となるサービスを提供する事で持続可能な介護保険制度を目指す。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

認定調査及び例外給付に関わるケアプランの点検率は 100%だった。来年度も継続して実施していく。

④介護人材の確保・育成

【実施内容・実績】

介護予防サポーター養成講座は新規参加者を対象とした初級編と過去に参加された方を対象にした上級編に分けて講座を実施し、介護人材の育成に努めた。

また、令和4年度から西白河郡の5市町村が共同でしらかわ介護福祉専門学校を支援し介護人材の育成に努めている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和6年度から、地域に介護予防サポーターと村保健師を派遣し、参加者の健康・介護予防に対する意識向上を図る取り組みをしている。

今後も各地域で自主活動が行えるよう介護予防サポーター養成講座を開催し、人材育成に努めていく。

⑤ケアマネジメントの質の向上

■ ケアマネジメントの質の向上

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
ケアプラン点検の実施	1事業所	1事業所	1事業所	1事業所

【実施内容・実績】

介護支援専門員が作成したケアプランが、実際にサービスを受けている利用者様にとって適切に機能しているのかについて点検する。併せて、介護支援専門員のケアマネジメントスキルの向上も目指す。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今年度は1事業所のケアプラン点検を実施。来年度も継続して行う。

(2) 介護者への支援

①寝たきり等高齢者紙おむつ支給事業

■ 寝たきり等高齢者紙おむつ支給事業

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
申請者数	410人	474人	415人	420人
助成券発行枚数	4,550枚	5,221枚	4,560枚	4,570枚
紙おむつ給付券延べ利用枚数	2,700枚	3,125枚	2,750枚	2,800枚

【実施内容・実績】

在宅で介護認定を受けている高齢者の方に対して、利用類型4分類(最重度、重度、中度、軽度)に応じ給付券を支給している。村 HP や広報誌で周知を行い、利用者は年々増加傾向にある。

最重度:5,800 円 重度:4,200 円 中度:2,500 円 軽度:1,000 円 ※(1 割自己負担)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者人口の増加に伴い、本事業の利用者及び支給額も増加している。本人や家族に加えケアマネからの問い合わせも多い。引き続きケアマネジャーと連携し、事業対象者への周知を行っていく。また、今後利用者の実態に合わせた事業内容を検討していく。

②要介護等高齢者介護者激励金

■ 要介護等高齢者介護者激励金

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
激励金申請件数	80件	73件	80件	80件
激励金交付件数	70件	70件	70件	70件

【実施内容・実績】

要介護3以上の方を在宅で6か月以上介護している介護者に激励金を支給し介護者の労をねぎらうとともに経済的負担を軽減する事業。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

介護度の高い要介護者を自宅で介護することの負担は、大きく、こうした事業により介護者を激励することは、介護者の精神的負担の軽減にもつながると考えられる。また、介護者のニーズを鑑みつつ、今後も事業を継続していく必要があると考えられる。

③家族介護慰労金

【実施内容・実績】

要介護4以上の住民税非課税世帯の在宅高齢者等で、過去1年における介護保険によるサービスを受けなかった方を介護している家族へ家族介護慰労金を支給する。

期間中の申請件数:0 件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

要介護者を在宅で介護する家族の負担は大きいことが考えられるため、介護者の労をねぎらうとともに経済的負担を軽減し、高齢者福祉の増進を図る必要があるが、介護保険制度の地域支援事業であり、任意事業に位置付けられているため受給条件が厳しいことが課題となる。

要介護等高齢者介護者激励金支給事業と連携し、介護者の労をねぎらうとともに経済的な負担の軽減と要介護高齢者等の在宅生活の継続、向上を図り事業内容の周知も行っていく。

④ヤングケアラー、ビジネスケアラーへの支援

【実施内容・実績】

乳幼児健診や学校・幼稚園等を対象とした巡回訪問等を通じ、村内在住の子どもとその家庭の状況の把握に努めています。福祉・教育・介護・医療・地域と連携しながら、子どもが子どもらしくいられる社会を目指し、個々に合ったより良い支援を行っていきます。

また、高齢化の進行に伴い、日本全体でビジネスケアラー（仕事をしながら家族等の介護に従事する者）の数が増加しています。ケアラーが介護を担う前とほぼ変わらない働き方を継続でき、負担軽減を図れるよう、子どもとその世帯支援を行っていきます。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

自分が「ヤングケアラー」と自覚していない場合が多く、支援につながりにくいため、巡回訪問等を通じ、村内在住の子どもとその家庭の状況の把握に努めていく。

（３）非常時における介護事業所等の業務継続への支援

①自然災害への対策支援

■ 自然災害への対策支援

	R6		R7	R8
	目標値	実績値	目標値	目標値
関係機関との連携会議	1回	2回	1回	1回

【実施内容・実績】

令和6年度は、民生委員の定例会において避難行動要支援者に対する講習会を開催し、連携を図った。また、年一回県南保健福祉事務所との合同会議に出席した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

民生委員への講習会の内容が毎年同様になっていることから次回からは内容の変化を加えて進めてまいりたい。

②感染症への対策支援

【実施内容・実績】

介護保険施設や事業所等との連携に努め、感染拡大防止策の情報提供や啓発を実施し、感染症に対する備えを進めている。また、感染症拡大防止のための衛生・防護用品の備蓄の推奨と体制整備の方法について介護保険事業所と情報共有を行い、村でも緊急時に備えて備蓄の確保に努める。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

感染症が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築することは重要であり、指定基準により、全ての介護サービス事業者を対象に、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施等が義務付けられているため、村内の介護サービス事業者に対して必要な助言及び適切な援助を行っていく。